

マラウイにおける幼児教育研修の保育者および
小学校教師の知識と技術習得への効果

谷口 京子
広島大学

研究の背景

就学前教育への関心の高まり

開発目標

- 1990年万人のための教育 (Education for All: EFA)世界会議
- 2000年「EFAダカール目標 (2015年まで)」(1)就学前教育の拡大と改善
- 2015年「持続可能な開発目標：目標4」(2) 2030年までに男女区別なく、全ての子どもが質の高い乳幼児の発達・ケア、就学前教育にアクセス

早期介入の重要性

- 貧困削減
- 不平等の緩和
- 社会的・経済的コスト削減
- **身体的・社会情緒的・認知的・言語発達の助長**
- 非認知能力の育成、貧困層に効果(Heckman & Savelyev, 2012)

フォーマル教育（初等教育）の準備

- **初等教育の低学年における留年や退学の減少** (Kholowa & Maluwa-Banda, 2008)
- 初等教育の学業成績への影響(Taniguchi, 2022)

研究の目的

マラウイにおける幼児教育研修の保育者および小学校教師の知識と技能習得に与える効果を分析することである。

特に、研修を通して得られた知識や技能、活動の変化について焦点を当てる。

マラウイの就学前教育

- マラウイの就学前教育は、1950年頃に宣教師による普及が始まり、1970年代から政府の支援が開始された。
- 1980年代には、UNICEFの援助を受けて、コミュニティ・ベース・チャイルドケア・センター（Community-Based Childcare Centre: CBCC）が設立された。
- 1990年代には、有償のナーサリースクールと無償CBCCという二つの形態に大別されるようになった。
- 2003年、政府は初めて「幼児期発達に関する政策」を発行し、その後の修正を経て、2017年に同政策が完結した。
- 2020年には「幼児期発達の基礎研修マニュアル」が策定され、2021年には「統合幼児期発達の国家カリキュラム（レベル1-3）」が制定された。

（出所: Kholowa & Maluwa-Banda, 2008; MoGCDSW, 2018; MoGCDSW, 2021）

マラウイの就学前教育は、近年、急速に整備が進められている。

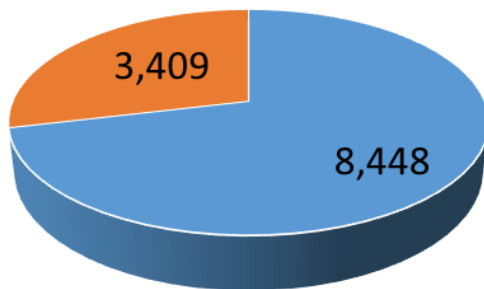
マラウイの就学前施設の種類

- 無償の施設: コミュニティ・チャイルドケア・センター (Community-Based Community Centre: CBCC)
- 有償の施設: ナーサリースクール (Nursery school)

Proportion of Public (CBCC) and Private in Malawi

Public/CBCC Private

全体

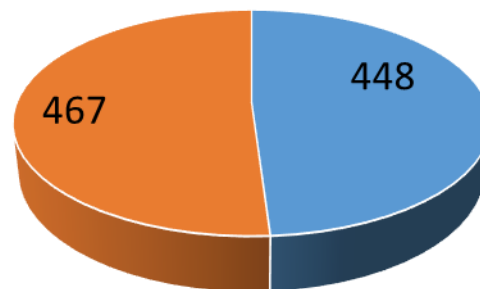


就学前施設の
7割がCBCC

Proportion of Public (CBCC) and Private in Lilongwe

Public/CBCC Private

都市部

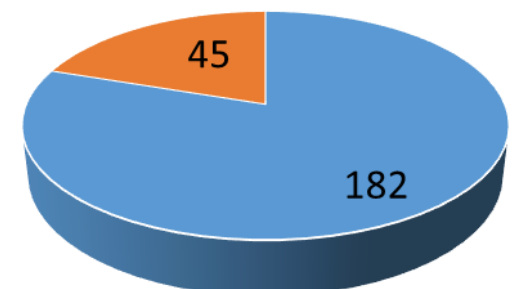


就学前施設の
5割がCBCC

Proportion of Public (CBCC) and Private in Nkahta Bay District

Public/CBCC Private

農村部



就学前施設の
8割がCBCC

マラウイの就学前施設へのアクセス

■ 就学前施設の増加

7,801施設(2007年) → 12,220施設(2018年)

cf. 小学校数 : 6,194 (2017/18年)

ECD施設数の不足

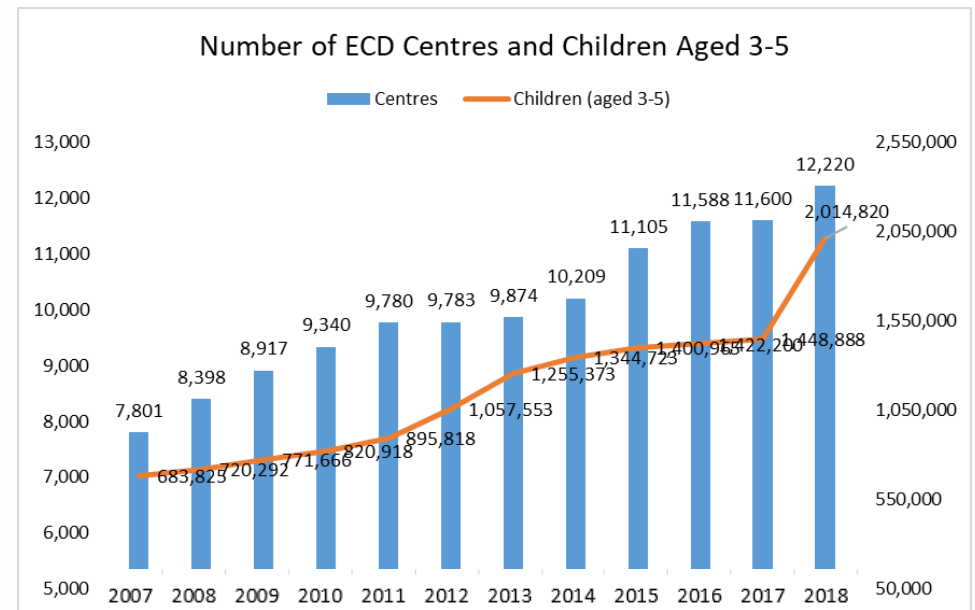
■ 就学前施設へアクセスする3~5歳児の増加

683,825名(2007年) → 2,014,820名(2018年)

cf. 小学校の児童数 : 5,187,634 (2017/18年)

■ 就学前施設へアクセスする3~5歳児の割合 : 48.7%(2018年)

2人に1人の3~5歳児しか就学前施設にアクセスできていない



(出所 : MoGCDSW, 2018)

マラウイの保育者の状況

研修の種類

1. 14日間の研修受講
2. 6ヶ月のトレーニング：2週間座学＋8週間ECDで実践を3回繰り返す

	全体	都市部 リロングウエ	農村部 ンカタベイ県
保育者数	35,063	2,157	595
研修を受けた保育者数	16,575 (47.3%)	1,518 (70.4%)	384 (64.5%)
就学前1施設あたりの保育者数	3.02	2.36	2.62
就学前1施設あたりの研修を受けた保育者数	1.43	1.66	1.69
保育者1人あたりの子ども数	41.84	90.15	52.42
研修を受けた保育者1人あたりの子ども数	88.50	128.10	81.22

(出所：MoGCDSW, 2021)

研修を受けた保育者の不足

CBCCの運営

設立要件

- 場所の確保
- 保育者の確保



運営

- 保育者：2～4名
(一部のメンター以外、基本的に無償のボランティア)
- CBCC委員会 の役員：0～10名
- 地域の子どもも保護員：1名



* メンターへの報酬：MK20,000/月＝約1600円＝約\$11 (2022年から)

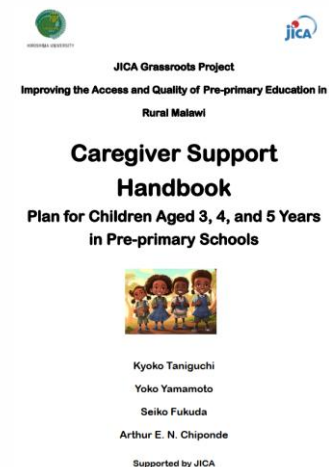
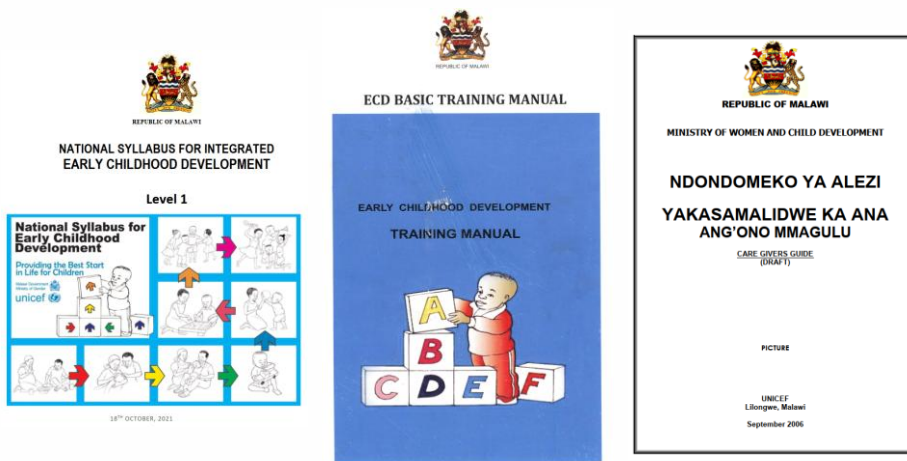
研究方法：教材

教材の作成

- マラウイ政府が策定した幼児教育カリキュラムや保育者向けのトレーニングブック、ガイドブック等を参考とし、「保育者サポートブック」を英語版およびマラウイの公用語であるチェワ語版の二言語で作成した。
- 教育学、公衆衛生、栄養学の専門家が協働し、さらに、幼児教育の専門家や、ジェンダー・コミュニティ開発・社会福祉省ならびに県社会福祉事務所の実務担当者から助言を受けて、作成した。

英語版

チェワ語版



研究の方法：教材の内容

保育者サポートブックの内容

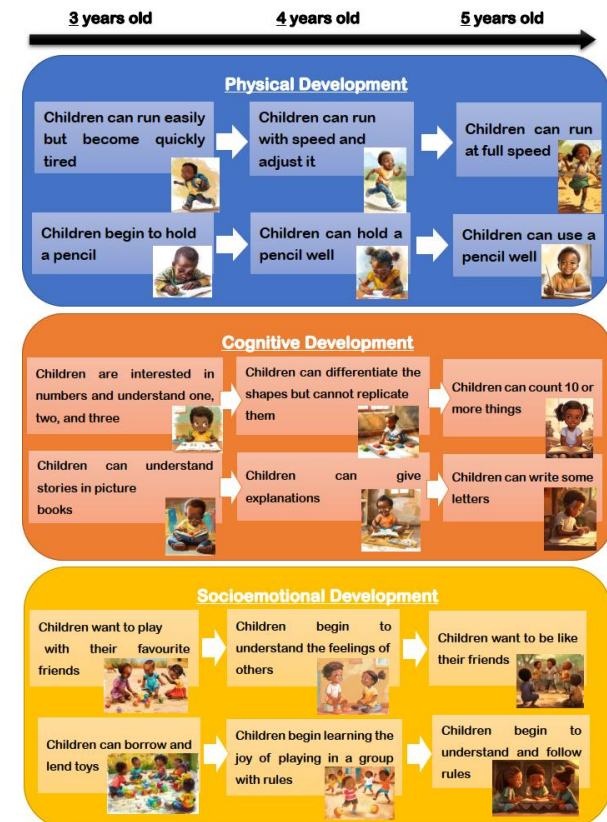
1. 子どもの発達理解
2. 活動計画の立案
3. 保健と栄養
4. 施設運営

* 簡単な文章と絵で構成

Table of contents

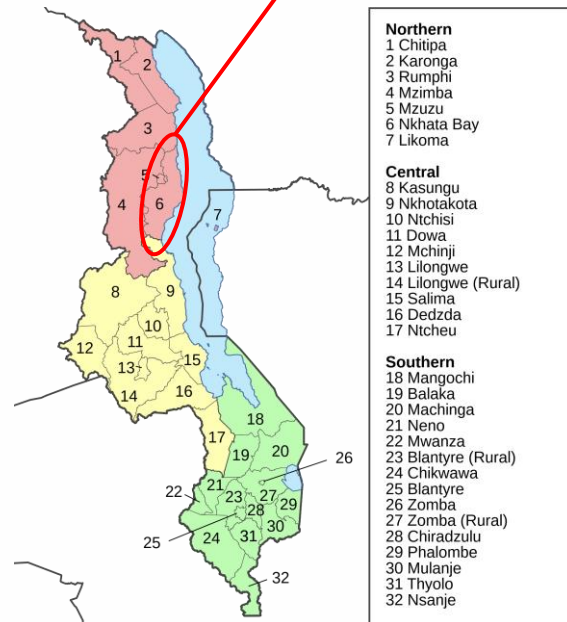
Acknowledgements.....	3
Forward.....	4
How to Use This Handbook.....	5
I. Understanding the Development of Children Aged 3, 4, and 5 Years .	6
1. Development of Children Aged 3, 4, and 5 Years	7
2. 3 years old	11
3. 4 years old	14
4. 5 years old	17
II. Creating a Plan.....	21
1. Creating an Instructional Plan	22
2. Example of an Instructional Plan	25
3. Evaluation.....	28
III. Supporting the Health and Nutrition of Children	29
1. Health Support.....	30
2. Nutrition Support	34
IV. Managing the Facility	39
1. Role of the Caregiver	40
2. Community and Parental Support	42
References	43
Appendix A: Annual/Term/Monthly Plans	44
Appendix B: Weekly/Daily plan.....	45
Appendix C: Daily plan	46
Appendix D: Length/height for age.....	47
Appendix E: Weight/height for age	48

1. Development of Children Aged 3, 4, and 5 Years



研究方法：概要

対象地域：ンカタベイ県



- 対象地域：マラウイ北部のンカタベイ県
- 研修の実施：2024年9月上旬に3日間
- 研修の参加者：

研修の参加者	人数 (名)
県社会福祉事務所職員	4
県教育事務所職員	2
地域の子ども保護員	3
CBCC5施設の保育者 (各施設より3名)	15
小学校7校の教師 (各校の校長と低学年の教師各1名)	14
計	38

- 専門家2名
- JICAマラウイ海外協力隊員17名

研究の方法：研修

1日目：専門家が説明し、県社会福祉事務所職員が説明する
2～3日目：県社会福祉事務所が説明し、
専門家が不足内容を補足する



遊びを通した学びの紹介



活動計画の立案



身体計測



食育ボードの作成



研究方法：研修の効果の測定1

調査1

- 調査時期：研修の前後
- 調査対象者：研修の参加者
- 調査ツール：質問紙調査
- 分析：記述統計と対応のあるt検定

質問紙の構成内容

項目	項目数		
幼児教育の知識及び 技能の理解度	子どもの発達理解	6	12
	計画の作成	2	
	保健と栄養	3	
	保育者の役割	1	
研修内容を実践する自信度	6		

研究方法：研修の効果の測定2

調査2

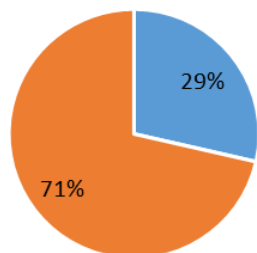
- 調査の時期：研修から約半年後の2025年3月
- 調査対象者：CBCCC5施設の保育者15名、子ども保護員3名、地域住民22名、
小学校6校の教師7名
- 調査ツール：半構造化インタビュー調査及び参与観察
- 分析方法：半構造化インタビュー：主題分析とテキストマイニング
参与観察：録画映像の分析とフィルードのノート

調査1の結果：対象者の属性

質問紙調査の対象者の属性

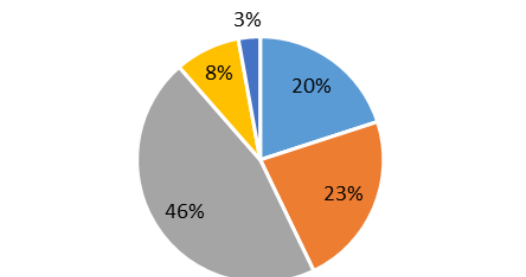
性別

■ 男性 ■ 女性



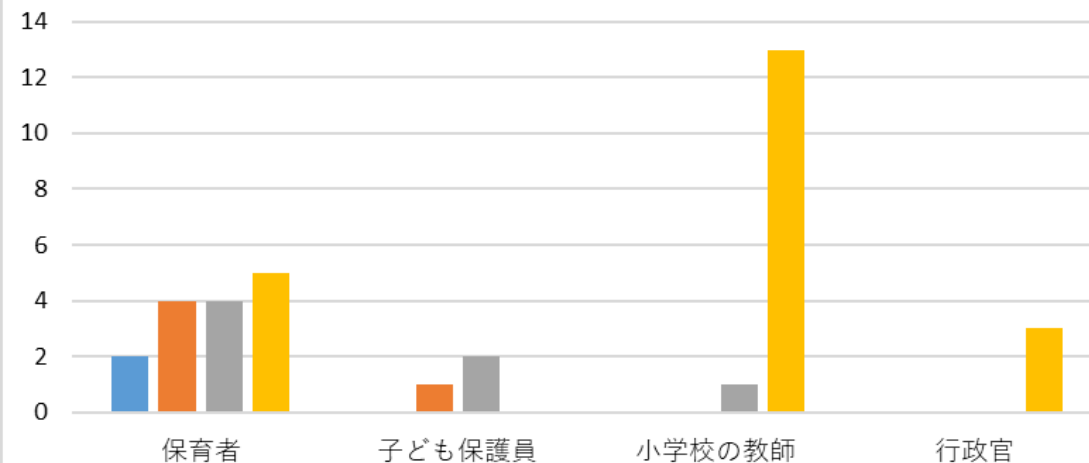
年齢

■ 21-30歳 ■ 31-40歳 ■ 41-50歳 ■ 51-60歳 ■ 61歳以上



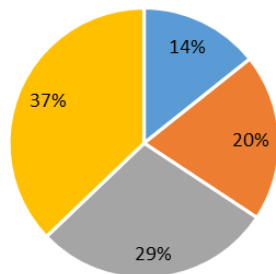
教育水準

■ 小学校 ■ 前期中等学校 ■ 後期中等学校 ■ 高等教育



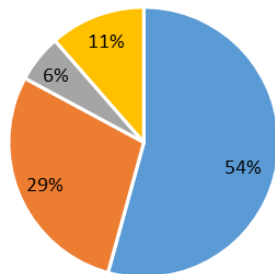
経験年数

■ 1年以下 ■ 1-3年 ■ 4-10年 ■ 10年以上



研修の受講数

■ 無 ■ 1回 ■ 2回 ■ 3回以上



調査1の結果：知識や技能の習得

表：研修前後の知識や技能の習得

項目	項目数	平均値			<i>p</i>	効果量	
		研修前	研修後	差		Cohen's <i>d</i>	効果
子どもの発達の理解	6	0.371	0.629	0.257	***	1.296	大
計画の作成	2	0.229	0.571	0.343	***	1.095	大
保健と栄養	3	0.467	0.730	0.264	***	0.926	大
保育者の役割	1	0.686	0.857	0.171	*	0.415	小
合計	12	0.398	0.662	0.264	****	1.805	大

参照:*** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$.

効果量の基準 $d = 0.2$:小さい効果, $d = 0.5$:中程度の効果, $d = 0.8$ 大きい効果

- 子どもの発達の理解、計画の作成、保健と栄養、保育者の役割の全項目において、研修後の平均値は研修前を上回り、その差は統計的に有意であった
- 研修全体と保育者の役割を除く全ての項目で大きな効果量が確認された。

→研修期間は3日間と短期間であったが、対象者の知識や技能の習得に対して顕著な効果が認められた。

調査1の結果：改善点

改善した知識

Q4	初めて鉛筆を持ったときは、_____。	研修前	研修後
1	子どもは握る力が強い。	22.9	2.9
2	子どもは文字が書ける。	5.7	2.9
3	子どもは簡単な文字が書ける。	5.7	5.7
4	子どもは握る力が弱い。	57.1	82.9
5	子どもは何も書けない。	8.6	5.7

Q6	社会性を育むために、_____。	研修前	研修後
1	子どもは先生のすることを真似する。	54.3	14.3
2	子どもはルールのある集団遊びを通して友達と遊ぶ。	42.9	85.7
3	子どもは数字を学ぶべきである。	0.0	0.0
4	子どもは毎日朝ごはんを食べるべきである。	2.9	0.0
5	子どもはアルファベットを理解すべきである。	0.0	0.0

Q12	保育者の役割として、_____が重要である。	研修前	研修後
1	子どもに学校で遊ばないように教えること	0.0	5.7
2	子どもが自分で遊べる環境を整えること	68.6	85.7
3	子どもに自己紹介を覚えさせること	20.0	2.9
4	子どもが外に出られない場所を用意すること	2.9	0.0
5	子どもに先生の言うことを守らせること	8.6	5.7

Q10	_____、歯を磨くことが重要である。	研修前	研修後
1	朝食後	0.0	0.0
2	起床後	31.4	8.6
3	朝食、昼食、夕食後	62.9	91.4
4	朝食と夕食後	0.0	0.0
5	寝る前	5.7	0.0

Q11	_____の組み合わせはバランスがとれている。	研修前	研修後
1	シマ、豆、魚、塩	37.1	14.7
2	シマ、豆、塩	0.0	0.0
3	おかゆ、大豆、ピーナッツ	31.4	11.8
4	おかゆ、牛乳、砂糖	0.0	5.9
5	おかゆ、大豆、牛乳、マンゴー	31.4	67.7

改善が見られなかった知識

Q5	子どもは数字を10まで覚えるために、_____。	研修前	研修後
1	毎日繰り返す。	57.1	62.9
2	毎日書く。	8.6	2.9
3	経験を通じて学ぶことができる。	17.1	25.7
4	親を通じて学ぶことができる。	8.6	0.0
5	10まで数えることができる。	8.6	8.6

調査1の結果：研修の内容を実践する自信度

表：研修前後の研修の内容を実践する自信度

項目	平均値			<i>p</i>	効果量	
	研修前	研修後	差		Cohen's <i>d</i>	効果
子どもの発達の理解	2.914	2.829	-0.086			
施設の運営	3.171	3.371	0.200			
遊びを通した学びの活動実践	3.229	3.257	0.029			
保健と栄養	3.286	3.257	-0.029			
食育ボードの作成	2.943	3.257	0.314			
計画の作成	2.829	3.286	0.457	*	0.371	小

参照：*** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$.

効果量の基準 $d = 0.2$:小さい効果, $d = 0.5$:中程度の効果, $d = 0.8$ 大きい効果

- 自信度が研修前後で増加した項目は、施設の運営、食育ボードの作成と計画の作成の3項目に限られた。そのうち計画の作成のみが統計的に有意な差を示したものの、効果量は小さかった

→研修で習得した内容を実際に実践する自信は十分には醸成されなかった。

調査2の結果：インタビュー結果（保育者）

	キーワード	説明	インタビューの回答
1	保健	子どもの身体測定を毎月実施している。	"Measure height and weight every month."
2	栄養	栄養の促進を目的として、CBCCCの周囲で野菜などの栽培を始めた。	"Make a garden for sweet potatoes and maize." "Give fruit to children. When we have mango, we give it to them after porridge."
3	子ども中心の学び	子どもたちが自ら学べる環境を整備し、遊びを通じた学びを重視するようになった。	"Child-centred: Children start, and teachers follow." "Children can learn by themselves. Introduce children-centered."
4	保育者の役割の変化	保育者の役割も変化し、子どもたちに遊びと学びの時間を提供するようになった。	"Previously, caregivers were busy teaching children, but now they give children time to play and learn." "Monitor children's free play."
5	計画の作成	活動計画や時間割を作成した。	"Make action plans." "The timetable is available."
6	地域住民と知識の共有	地域住民と知識を共有した。保護者に対しては、さまざまな食物を摂取するよう促した。	Share knowledge with other caregivers." Encourage parents to eat a variety of foods."
7	CBCCCに通う子ども数の増加	地域社会および保護者の参加を促進し、子どもたちを教育機関に送り出すよう働きかけた結果、CBCCCに通う子どもの数が以前より増加した。	"Mobilize community and parents. Visit each house to tell parents to send children to CBCCC." "Currently, there are 87 children, an increase from the previous number."

調査2の結果：インタビュー結果（地域住民）

	キーワード	説明	インタビューの回答
1	保健	毎月、身体測定を行い、子どもの成長を記録している。子どもたちは食事の前に手を洗う週間が身に付いた。	"Caregivers measure the height and weight of children." "Children wash their hands before eating."
2	栄養	自分たちの庭で育てた作物を使って、子どもたちに栄養価の高い軽食を提供している。	"Made a garden for sweet potatoes and maize." "Porridge with mixed other foods."
3	学習の質の向上	子どもたちは、以前よりも数を数えたり、アルファベットを学ぶようになった。	"Children can learn more: counting numbers and the alphabet."
4	保育者と子どもの関係	保育者と子どもとの関わりが改善された。	"Children interact better with caregivers." "Caregivers can interact with children."
5	計画の作成	活動計画が立てられ、以前は同じ活動の繰り返しが多かったが、現在ではさまざまな活動が見られるようになった。	"We can manage our time effectively through daily planning." "In the past, caregivers would repeat the same content, but now they can change the topic every day."
6	地域住民との関わり	地域住民との関わりが改善された。	"There is not much collaboration between community members and caregivers. After the workshop, caregivers can tell their absence."
7	CBCCに通う子ども数の増加	CBCCに通う子ども数の増加した。	"Attendance has increased from 42 to 68 children."

調査2の結果：インタビュー結果（小学校教師）

	キーワード	説明	インタビューの回答
1	小学校への準備	子どもたちはペンの使い方が分かるようになり、トイレに行きたいときに言葉で伝えられるようになった。数字やアルファベットの理解も進んでいる。	“Children from CBCC know how to hold a pen and work hard. They can tell the time of toilet, count numbers, and tell the alphabet.”
2	知識や技能の活用	保育者と子どもとの関わり方にも変化が見られ、活動の中にゲームを取り入れるようになった。	“Teachers can interact with children.” “We use the game.”
3	CBCCの保育者との協力	小学校には5歳ではなく6歳で入学するよう調整が行われている。	“Planning to meet caregivers and cooperate with children aged six who attend school, but not with those aged five who do not.”
4	トイレと保健	子どもたちは、トイレの後に手を洗うことができ、トイレに行きたいときも自分で伝えられるようになった。	“Children can wash their hands with soap after using the toilet.” “They can tell the time of toilet.”
5	保護者への助言	保護者の間でも、子どもを就学前教育施設に通わせることの重要性が認識されるようになってきている。	“Parents should send their children aged four to a nursery school.”

調査2の結果：参与観察（計画の作成、保健と栄養）

多くの施設で研修内容が一定程度実践されていたものの、その成果には施設間で差が見られた。

計画作成・保健と栄養に改善が見られた：C、D、E施設

- E施設では研修で作成した活動計画や食育ボードを積極的に活用し、保育者やコミュニティメンバーが継続的に確認や実践を行っていた（写真1）
- D施設では施設内に畑を設け、サツマイモやメイズの栽培を通じて子どもたちの栄養補給に寄与する取り組みが見られた。
- C施設においては活動計画の作成が進められていた（写真2）。

写真1：日課活動計画と食育ボード（E施設）



写真2：週間活動計画（C施設）

SKILL	ACTIVITY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
Physical	Kuwere nge	Books	Cards	Books	Cards	Cards
Cognitive	Cognitive					Books
Social	Kusewe ra	masanje	Kunaga nanga	Kumiba/Kuvina	Kucumba	Kumanga mpira
Physical						
Cognitive	kulemb a	Kujambuh zithuzi	maramba la	Kushaba	Kujambuh maShape	Kulamba zithuzi
Physical						
Physical	Kutha nanga	Chupako	Kumanga mpira	follow the leader	Mary Jacob	fish-fish
Cognitive						
Spiritual	Kupem phera	Bible Verses	Athano	Bible Stories	Kyimbo Zauzimu	Zintuzi Zauzimu/andhuatole

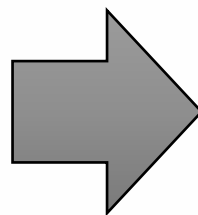
調査2の結果：参与観察（活動）

活動に大きな改善が見られた：D施設



2023年5月

研修後



2024年12月

まとめ

- 3日間の研修により知識の向上は見られたものの、研修内容を実践する自信までは十分に培われなかった。
- しかし、研修半年後には、研修内容を実際の活動に活かす取り組みが見られた。多くの施設で研修内容は実践されていたが、その程度には施設間で差が認められた。
- この差は、これまでに受けた研修回数や、地域住民からの協力体制の違いによる可能性が高い。
- 幼児教育の質を向上させるためには、短期間の研修に加え、継続的な支援体制の構築と実践できる機会の確保が不可欠であることが示唆された。

参考文献

- Heckman, J., Pinto, R., & Savelyev, P. (2013). Understanding the mechanisms through which an influential early childhood program boosted adult outcomes. *American Economic Review*, 103(6), 2052-2086.
- Kholowa & Maluwa-Banda. (2008). Early Childhood Education and Development in Malawi: Major Challenges and Prospects. *The Zimbabwe Journal of Educational Research*, 20.11- 21.
- Ministry of Gender, Children, Disability and Social Welfare (MoGCDSW). (2018) . *National Strategic Plan for Integrated Early childhood Development (I-ECD) 2018-2023*. Lilongwe, Malawi.
- Ministry of Gender, Children, Disability and Social Welfare (MoGCDSW). (2021). List of community-based childcare centre. Lilongwe, Malawi.
- Taniguchi, K. (2024). The impact of pre-primary education on primary student achievement: evidence from SACMEQ III. *International Journal of Early Years Education*, 23(2), 484-502.

ご清聴ありがとうございました

質問や助言は、以下までお願いします
Email: tanikyo@hiroshima-u.ac.jp

本研究は、JICA草の根技術協力事業「マラウイ農村部における就学前教育アクセスの向上と質の改善」の実践を基盤としています。本プロジェクトにあたり、JICAカンボジアのプロジェクト専門家である山本容子先生、および日本大学の福田聖子先生にご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

ホームページ : <https://tanikyo.hiroshima-u.ac.jp/research.html>